

卒業生のいま



おかもと くに かず
光泉高等学校 教諭 岡本 邦一さん

■ Profile 京都市出身。小学生の時、草津市へ移住。2004年3月に滋賀大学教育学部教員養成課程を卒業し、同大学大学院教育学研究科に進学。大学院在学中、野洲高校の講師を勤める。2007年3月修了。大阪で教師生活を送るが、自分の子どもは滋賀県で育てたいと思い、Uターン。2009年4月から、母校・光泉高校の教壇に立つ。現在、高校1年生Ⅲ類(特進クラス)担任・生活指導部所属・サッカー一部監督。専門教科は数学。

子どもたちが夢を叶えることができるよう、手助けをするのが教師の仕事 社会に出ても頑張れる強い子どもに育てほしいとの願いを込めて

■ 教師である両親の背中を見て育つ

両親がともに教師で、子どものころからその背中を見て育ったせい、人に教えたり、人と関わることが好きで教師の道を選びました。滋賀大時代はサッカークラブに属し、2回生の時には、学祭の実行委員で事業部長(裏方の長)を務めました。良い意味で活発な学生だったと思います。友人も多く、一人一人と深くつきあうことができたのは、滋賀大ならではの良さだと感じました。毎年2月になると、所属していた数学研究室のメンバー全員で野沢温泉に行くのが慣例でしたが、それもまた楽しい思い出です。

■ 夢の実現をともに味わう醍醐味

高校の教師になりたいと思ったのは、高校生は小学生や中学生と比べて大人にとっても近い位置にいて、卒業したらダイレクトに社会とつながる可能性を持った存在だからです。大学進学はもちろんのこと、看護師や技術者、スポーツ選手、保育士、美容師、シヨツ



プオーナーなど、子どもたちの描く将来像は様々ですが、教師の仕事は彼らが自分の夢を叶えられるよう、導き手助けすること。時には未来は一つではなく、いろいろな選択肢があることを示唆してあげることも大切です。自分ではやりたくてもできない経験や仕事を、子どもたちが成し遂げてくれる。その喜びを共に味わえるのは、高校教師の醍醐味だと思います。

■ 教師の人権感覚を養う模擬授業を

母校の光泉高校で教師になって4年目になります。1年目は1年生の担任補助、2年目3年目と国公立大学や難関私立大学を受験するⅡ類(特進コース)の2年生、3年生の担任となり、今年1年生を任せられました。実際、現場に出てみないとわからないことがたくさんあります。その一つが子どもの叱り方です。「子どもは誉めてのばせ」というけれど、叱って正しい方向に導くことも重要です。在学中に子どもの叱り方を教わったことはありませんが、教育で一番難しいのは叱ること。叱るとは“導く、サポートする”ことだと思っています。また、教師として外国籍の生徒への対応や同和問題、また、普段のちょっとした会話の中での言葉遣いなど、人権感覚の必要性を強く感じる場面にもよく遭遇します。在学中に人権ロングホームルームなど、人権について考える模擬授業などがあるといいですね。教師を志望される方は、社会との接点を持ちながら様々な体験をしていただきたいと思います。それが子どもとのコミュニケーション能力を養うことにつながりますし、教科や生徒指導にも生きてくると思います。



かわ かつ あい
日本航空株式会社 川勝 藍さん



■ Profile 京都府亀岡市出身。2007年3月、滋賀大学経済学部経済学科卒業。学生時代はバレーボール部のマネージャーを務めるなど、積極的にいろいろなことにチャレンジ。接客が好きで銀行に就職するが、自分が本当にやりたいことは別にあると気づき退職。2008年10月、株式会社日本航空インターナショナル(現日本航空株式会社)入社。現在は同社「第1客室乗務員」に勤務し、ボストンやシンガポール、モスクワなどを担当している。

接客のプロになりたくて、銀行から航空会社に転職 客室乗務員にとって最高の喜びは、お客様の笑顔を見ることです

■ 就職力の強さで滋賀大学へ

私が滋賀大学に進学した一番の理由は就職率の高さです。また家から通える範囲であること、伝統があり、彦根のまちが故郷の亀岡にどことなく似ているということもあり、4年間、約2時間かけて亀岡から通学しました。バレー部のマネージャーをしており、選手たちが勝ち上がっていく姿を見るのがとても楽しかったですね。弘中 史子先生のゼミに所属し、社会人としてのマナーやマネジメントの重要性などについてもいろいろと教えていただきました。特に時間の管理という面においては、今の仕事にとっても役立っています。

■ 就職後に気づいた本当の自分

学生時代、塾の講師や飲食店などでバイトをしながら、生徒やお客さまの喜び顔を見るのが大好きでした。金融機関や住宅設備などの会社中心に就職活動を行い、4回生の春には銀行に内定をいただきましたが、勤務するうちに自分の原点は学生時代のバイト先で出会った多くの笑顔にあることに気づき、子どものころからの憧れでもあった航空会社に転職を考えるようになりました。



そこで毎日の勤務が終わってから苦手な語学の勉強や、週に2回エアラインスクールに通って日常英会話や面接、客室乗務員としてのマナーや所作などを学ぶうち、(株)日本航空インターナショナルの既卒採用が発表されたため受験、採用されました。入社後2年間は国内の



幹線(札幌や福岡など主だった都市を結ぶ主要路線)に乗務し、国際線への移行訓練を受け、現在ではビジネスクラスも担当。まもなくファーストクラスを担当することになり、とてもやりがいを感じています。「今日の旅は良かったよ」というお客さまの声を聞くと、疲れが吹き飛びます。

■ 広い視野を持ち新たな可能性を模索

私のようなケースは滋賀大ではまれかもしれませんが、こじんまりとしてアットホームな雰囲気は長所だと思いますが、就職に関しては保守的な一面も…私も最初は銀行に就職しましたが、その時にはそうすることが最善の道であると思いましたが、銀行での1年半がなければ今の自分はなかったと思っています。でも本当の自分に出会えたのは、滋賀大での濃密な4年間があったからこそ。最初からこの道しかないと決めつけるのではなく、在学中にはいろいろなことにチャレンジして視野を広げ、様々な人々との結びつきを大切にしながら新たな可能性を模索し、自分が本当にやりたいことを見つけてください。